

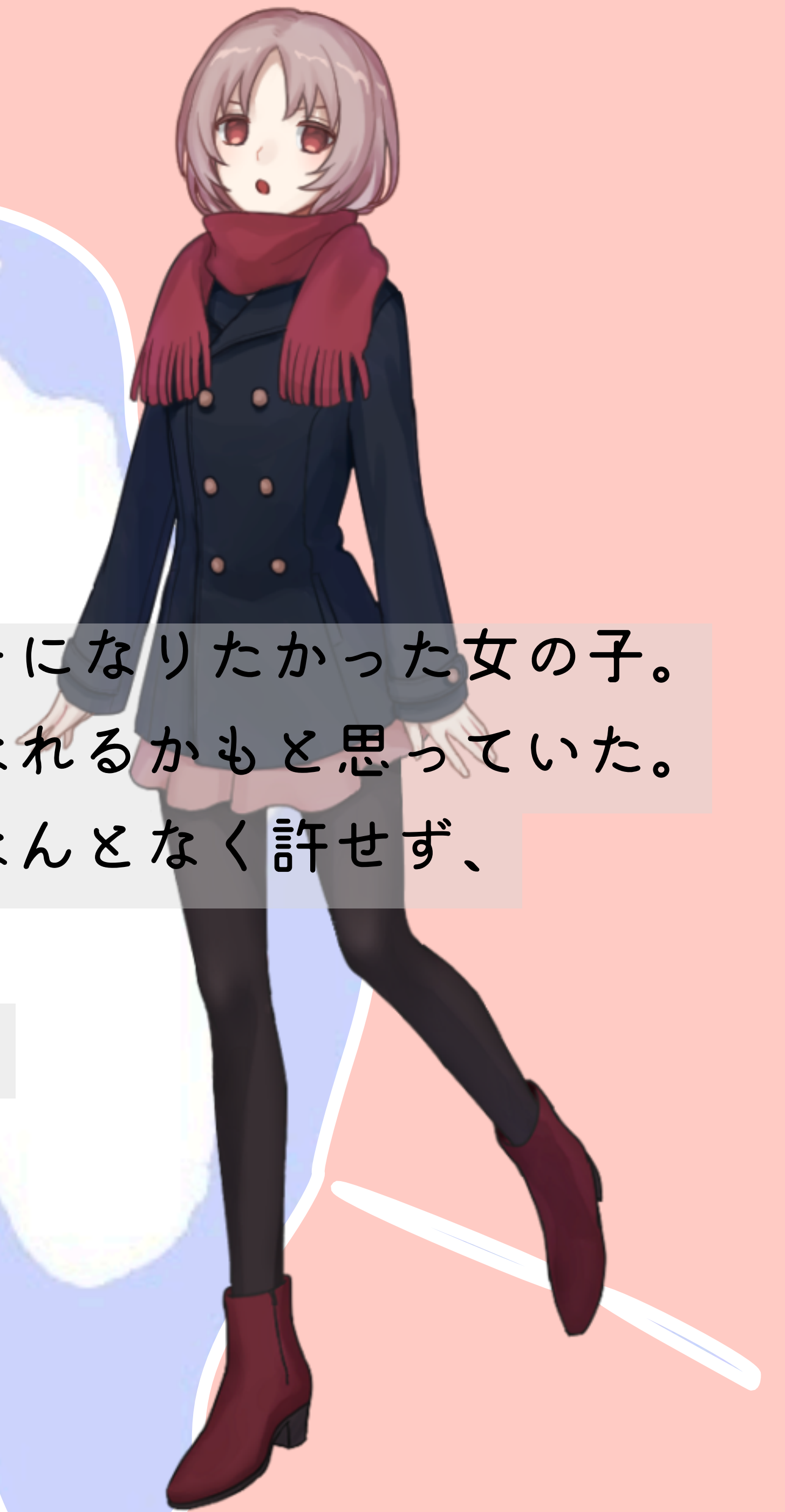


Female



自殺掲示板で出会った友達

インターネットの自殺掲示板で出会った心が弱いけどヒーローになりたかった女の子。
あなたと出会ったことで自分は人を救えるかも、人に優しくなれるかもと思っていた。
誰にいじめられているというわけでもないが、自分の存在がなんとなく許せず、
うっすらとした死にたさを抱えている。――
あなたのいない学校で、生きるためにヘラヘラと笑っている。



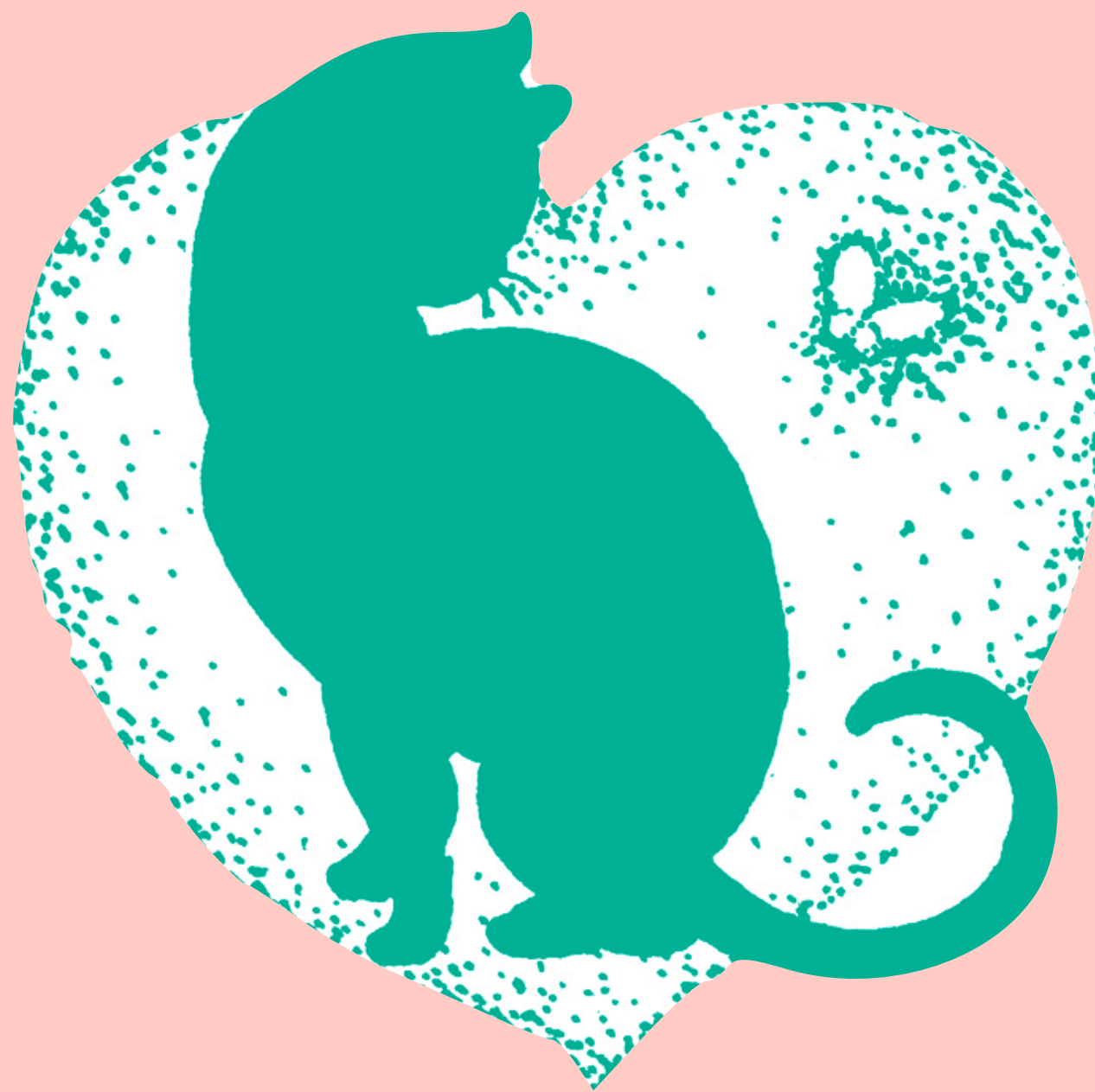
ネコ

数年前に出会った猫。

初めは人間不信気味だったがあなたと出会ったことで
誰かを信じてみるもいいなあと感じていた。

好きなものは鯉節をまぶした震るカいおカゆ。

よくあなたが何かに熱中しているとかまっく欲しくてそばに近寄っていたが、無意識。
洋服などにギャレについて心を落ち着かせる癖があり、よく毛を付けて怒られていた。





回リ巴巴魔法使い

見た回は中学生くらい、中身もそれくらい、実年齢はその数十倍。

魔女としてはかなり力があるが世の中は魔女を求めていないので自殺している牙利人状態。

捨てられていたあなたを拾い、育て上げた。

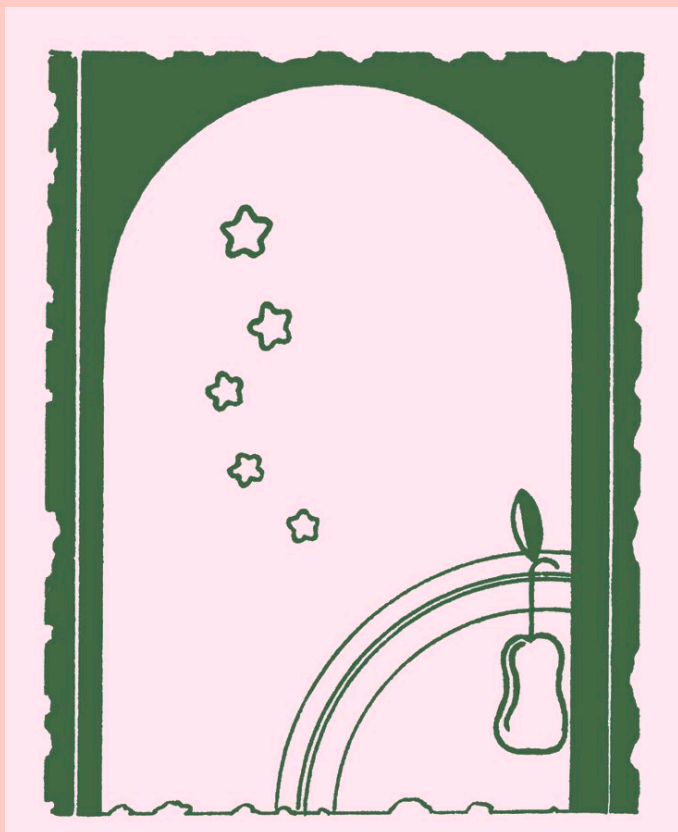
最初には永遠の命を多くに入れるための犠牲にしてやろうと念っていたが

そのうち愛着が湧いて、いつか殺そういつか殺そうと念っているうちにあなたに家を出られる。

その夜はゆっちょ泣いた。

異国生まれだが、様々な土地を渡り歩く中で（その当時の）日本の服に出会い惚れ込み、

それ以来ずっと着ている。



そうぎ屋さん

ちょっと不思議ちゃんなところがある年齢不詳の中性的な美人。

朝に弱い。

人と話すより、花とか飼っている犬に話かけている時間が長いが誰より人が好き。

自分と人との間に知らず知らず壁が築かれていることに気付いているがどうすればいいのかわからない。

その点、死者はどんな愛し方をしても文句を言わない、安心して愛せるのでこの仕事を選んだ。

毎回、棺を焼却炉に入れるとき平静を装いながらも心から胸を痛めている。

あなたとは街のどこかですれ違ったことがあるかも……





バス停で出会った女の子

読書は好きだが人との交流は苦手なので図書委員にはならないタイプの本好き。
図書館で借りた他人行儀な顔をした本ではなく、本屋で買った本を自分の好きに読みたい。
でも友達は欲しい。親がセカンドライフを始めると言って田舎に引っ越してきたばかり。
都会でも友達はいなかったのに未練はなかったが早まったかもなんて思っていた。
学校までバスで向かうので、バス停で本を読んでバスが来るのを待っていたところあなたに声をかけられる。
あなたと言葉を交わすことで自分が「今ここにいること」を認識できるようになり、
知らず知らず精神の安定につながっていた。
多分、あなたは初めて知りたいと思った他人だった。

